福島県文化財調査報告書　第一集

福島県發見の埋藏文化財図錄　二十葉

福島県教育委員会

はしがき

福島県に於ては、戦前に多くの「史跡名勝天然記念物調査報告書」が刊行されていた。

第一集　磐城海岸に於けるはまなす自生地の現状　大正十一年　小此木忠七郎

第二集　磐城国相馬郡福浦村大字泉沢ノ磨崖仏　同

第三集　赤井谷地植物調査　昭和三年　斎藤知賢

第四集　福島県発見石器時代土偶図版　昭和四年　小此木忠七郎

第五集　福島県に於ける古墳分布の状態　昭和五年　八代義定

第六集　沼沢火山調査報告書　昭和五年　満山長左工門

第七集　南湖公園と若松城跡　昭和十年　八代義定

この中には学界に大きな反響を与えたものも少くなかつた。

最近文化財に対して新しい曙光がきざし、文化財愛護の関心が深められ、今に生きる県民が、その伝統を回想しながら、明日への新しい文化創造の営みを続けていることはまことに欣ばしいことである。

県の文化財調査委員が発足し、県指定条例の制定も近く公布されることになつている。報告書の復刊は委員会発足当時からの懸案で各調査員は、価値高い研究を続行しているが、終戦後最も瞠目すべき日本的な新発見があつた埋蔵文化財写真集を第一集として刊行することになつた。

この報告書は、逐年その集を重ねて、戦時中の空白を埋め、東北という地域性を明にして、従来のあやまりを是正し、高い文化を持つていた祖先の生活を明にし、これが活用をはかることが出来れば幸である。

昭和二十七年三月

福島県教育委員会

一、縄文式文化

第一図版　遺　跡

1、遺　跡　東白川郡鮫川村大字赤坂中野壇の岡遺跡

棚倉町の東方阿武隈高原の中央、海拔五〇〇メートルの舌状にのびた丘陵の東端にあつて、昭和二十六年八月グランド工事中発見された。長径約三百メートル、短径百メートル余の頂上並びに山腹の斜面全地域にわたつて、おびただしい土器片が散在し、敷石の遺構六箇所、竪穴住居跡十数箇があつたが、大半破壊され、辛じて東北の約四分の一が保存されている。写真はその調査中の状況で、手前の二つは敷石遺跡、遠方の黒色は竪穴である。

この遺跡からは、第二図4の如き中期の大型の土器が数多く発見された。

2、た　て　穴　同壇の岡遺跡

1図の最遠方にある竪穴で、直径約六メートル五〇ほぼ円形をなす。中央に径一メートル内外に約六〇センチ掘凹めた円形の炉と、六箇の柱穴及び二箇の完形のかめ型土器、磨製石斧、凹石が発見された。

3、<ruby>**鑪**<rt>ふいご</rt></ruby>**と火つぼ**　信夫郡水原村日向道内

東北本線松川駅東方六キロ、奥羽山脈の余波が東北に舌状にのびた台地数箇所に先史遺跡があり、昭和二十六年五月発見された。写真向つて右は中期の土器を埋め、周囲を石で囲んだ火つぼである。左は石かこみの炉で、ほぼ矩形をなし、一方はたき口として石がない。火つぼの間は一枚石で区切つている。この炉と火つぼによつて当時の生活様式がうかがわれる好資料である。上方隅にある穴は柱穴であるが、竪穴の形は確認されない。（丹野惠治氏畑）

4、貝塚の人骨　相馬郡駒ケ嶺村三貫地貝塚

常磐線駒ケ嶺駅より東方二キロにある三貫地貝塚は、昭和二十六年三月下旬より四月にかけて、日本考古学協会縄文文化編年委員会を中心とし、当教育委員会、村共催で行われたが、加曾利Bから大洞Cの土器を伴つて多くの骨角器、石器、土製品が発見され、人骨五千余（うち完成の人骨二十余）家犬等が検出された。写真はAトレンチの人骨で、一種の屈葬体。肋骨、背柱、四肢骨にいたるまで完全であり、犬歯の抜歯がみられる。

第二図版　縄文式土器

1、前期土器　信夫郡水原村宇輪台出土

第一図3の日向道内遺跡と平行している丘陵より発見された。地下八〇センチ、一面に焼土の層があり、くるみ、くり及び竹類の炭化物と共に出土した。高さ一六・五センチの鉢形土器である。けつ状耳飾、石匕を伴出した。（県教育委員会保管）

2、中期土器　安達郡杉田村南杉田字長者宮出土

大正十二年東北本線杉田駅西南の丘陵から発見された。当時底部も存していたが今失う。現在高さ四一センチ、中期土器の代表的なもので日本的に誇り得る優品である。（所有者杉田村郷土研究会、委員会保管）

3、中期土器　信夫郡水原村日向道内出土

第一図3の火つぼに使用されていたもの。全面赤黒色に焼けている。瘤状突起に注意。高さ三九センチ。（福島学生考古学会発見並復原、委員会保管。）

4、中期土器　東白川郡鮫川村赤坂中野壇の岡出土

第一図の2の竪穴より発見、高さ六〇センチ、底部に穴あり。（福島大学渡辺功復原、保管鮫川村）

第三図版　縄文土器及び石器

1、中期土器　安達郡塩沢村上原出土

隆起文が口縁部に上つて縮少され、左右二箇把手がある。底部に綱代文を印している。高さ二五センチ。（教育委員会藏）

2、後期土器　安達郡杉田村

注口土器（注口部がかけている）縄文がなく、新地式にみられる瘤状突起と、それをかこむ沈線が帯状にめぐらされている。高さ二〇・五センチ。（杉田村郷土研究会所藏）

3、晩期土器　相馬郡駒ケ嶺村三貫地貝塚

左は、透し彫のある台付土器、右は注口土器で、大洞式（亀ケ岡式土器）の典型的なものである。

4、石　器

左は環状石斧（環石）径一四・五センチ。信夫郡水原村丹野福之助保管。右上は、綜麻石で双葉郡幾世橋村百間沢。上中は土製品の紡錘車、石城郡勿来町郡出土。右下は片刃石斧、石城郡草野村神谷出土。右下中はアメリカ式石鏃の名で呼ばれるもの、白河市天王山遺跡発見。これらの石器は多く縄文式文化の末又は弥生式文化に伴う。（委員会所藏）

第四図版　土偶・土版

1、女性土ぐう　伊達郡大枝村

四肢を欠く。現在高さ一六センチ。かぶり物なし。（頭部上のかぶり物様は、撮影の際枕にした紙、製版のあやまりである）福島市宮内富貫夫藏

2、中空につくられた土ぐう　河沼郡上野尻村西林崎出土

大さ約二〇センチ。下部なし。腕は突起状に簡略化され、眼口の表現がない異様な土偶で、腹部には会津地方にみられる縄文晩期又は弥生式の一型式にみられる磨消沈文があり、全身に朱を塗つている。中空で特殊な土偶である。（詳細の論考は福島県の古代文化六一頁参照。）国立博物館保管

3、土　版　右　安達郡玉ノ井村大石
左　同郡岳下村原瀬

左は長径一一センチの亀甲型で中空。写真の通り上部に円形の穴一ケ下部の直線をなす底部に一ケ穴があり、裏面にも同様なへら書の沈文がある。（同村安達富七所藏）

右は一部欠失しているが、ほぼ原形を保つている。長径八センチ。上方に人物の顔面の様式化した文様があり。中央の沈線の左右相対に渦巻文がある。（同郡大山村　高橋丑五郎所藏）

第五図版　石　器　類

1、石　や　り　伊達郡立子山村字入川。長さ二〇・三センチ

石　へ　ら　信夫郡水原村宇輪台。九センチ

同　伊達郡湯野村。一〇センチ

石　七（横　型）　信夫郡水原村字輪台
同　（たて型）　耶麻郡熊倉村獅子沢
石　錐　双葉郡幾世橋村百間沢
石　錘　北会津郡湊村赤井
石　鏃　各地

2、石　ほ　こ　福島市渡利字上ノ平

長さ二三・五センチ。類品が耶麻郡翁島村猪苗代湖底より発見されている。（鈴木輝男保管）他に二三類品がある外、数の少い打製石器である。（長沢幸四郎所有）

3、独　こ　石　相馬郡上真野村。一八・五センチ
石　棒（頭部）　大沼郡宮下村原谷
4、打製石斧　同
磨製石斧　伊達郡半田村三本木

第六図版　骨角器・装身具その他

1、骨　角　器　相馬郡駒ケ嶺村三貫地貝塚

左より四品はもり、次五品は針入及び針。次の上二品は腰飾等。右上三品は従来弓管といわれた浮袋の栓で、栓口の中にふたが挿入されている。その他骨鏃、釣針等。最大のもりの長さ一五センチ。

2、玉　器

左より、硬玉製大球、岩瀬郡大屋村桑名屋敷出土（岩越二郎所蔵）次二品けつ状耳飾。上は信夫郡平田村北焼野、長径四センチ、下は残欠信夫郡水原村字輪台、前期土器に伴う。次三品、勾玉、上は硬玉製伊達郡上保原村大柳出土。大さ三・五センチ（石田虎治所蔵）下は双葉郡幾世橋村百間沢。右上は環状耳飾径三・四センチ、信夫郡平田村音坊。下は土製の漏斗形耳飾、相馬郡真野村八幡林。

3、左、滑車型耳飾　朱彩　径六・二センチ。中央上同
下二品漏斗形耳飾（骨製）

右岩版　一部欠失、長七・五センチ、巾六センチ。断面楕円形の白亜質の石製。共に相馬郡三貫地貝塚出土。

4、土　製　猪　信夫郡飯坂町小川字穴田

全長約一〇センチ、最大巾三センチ。胴部に平行沈線。背部と面部に連点文がある。鼻部に猪属を思わせる二つの鼻孔あり。脚は極めて短く一部欠けている。（教育委員会保管）

二、彌生式文化

第七図版　弥生式土器

1、白河市天王山　出土

白河市の北、久田野の天王山（標高四〇七メートル）の山頂から多くの弥生式土器、米、クリ等が発見された。大きいのは概して粗製で高さ六〇センチ余のものがある。小さいのは精品が多い。写真はその一つの鉢口土器で、東北地方最古の樹形囲式平行で天王山式と命名されている。高さ一九センチ。（藤田定市復原、委員会保管）

2、石城郡勿來町大字窪田字郡　出土

十王台式の後期弥生式土器で、口縁部をかく、現在高さ約二〇センチ勿来町鈴木勝夫発見。（湯本高等学校保管）

3、東白川郡棚倉町字崖ノ上比尼堂　出土

野沢式の系統をひく弥生式土器で口縁部をかく。（白河高等学校保管）

4、伊達郡大田村金原田

福島県北部の特殊な弥生式の一型式である。三分の一に及ばない破片であるので、全形が明でない。現在高さ一三センチ。（大田小学校蔵、委員会保管）

第八図版　弥生式遺跡と遺物

1、北会津郡門田村南御山字中丸　出土

南御山式といわれる土器群の一である。野沢式の系統をひき、桝形式天王山式と共に東北地方の最古の形式である。口縁部をかく長くび壺形土器である。現在二一センチ。（明治大学考古学教室蔵）若松市栄町芳賀禧一所蔵品に優れたものがある。

2、大沼郡宮下村字桑ノ原

いわゆる接触式といわれる。縄文土器が弥生式文化の影響を受けたものの一例である。（白河高等学校蔵）

3、彌生式たて穴　相馬郡大野村椎ノ木新城山

新城山には方墳を中心とする円墳群があり、附近に竪穴が多い。写真はその一つで、昭和二十六年八月早稲田大学桜井清彦氏の調査になる竪穴で、三・八メートル×四・三メートル、壁高五〇センチ、不整形四角の竪穴で、中央に径五〇センチ内外積石の炉とおぼしきものがあり、壁外に「かまど」があり、土師器並びに前野町和泉式の弥生式土器片、紡錘車破片があつた。

4、竈　白河市天王山

遺跡の南端にあり、焼米、焼穀、土器が附近にあつた。住居跡の確証はあがらなかつたが、手頃の丸石で、円形に囲つた炉があつた。径約七〇センチ。

5、石　庖　丁（破片）右　相馬郡新地村
左　信夫郡鳥川村八幡塚附近

スレート質磨製の石庖丁は県内から相当数発見されているが、完形品は少い。二〇センチ内外の楕形で、二箇の穴がある。稲作の開始された弥生式文化の農具（鎌）であるが、所によつて縄文式晩期に伴うことがある。左は現在の大さ九・五センチ。全体の約半分である。

三、古　墳　文　化

第九図版　古墳の形式

1、前方後円墳　相馬郡原町桜井

長径約七〇メートル、後円部の巾約四五メートル、高さ約一八・五メートルの東北地方屈指の前方後円墳である。後円部が方形らしいので、前方後方墳ともみられる。前方後方墳は全国にも稀である。写真は前方部より写す。

2、円　墳（史跡指定甲塚円墳）石城郡夏井村大字荒田目

高さ八メートル余、径約三〇メートルの典型的な円墳で封土に老松が

ある。大正十二年史跡として指定。

3、横　穴　石城郡高久村大字神谷作字腰巻

甲塚円墳西方の山地に千五穴という大横穴群があり、その一連として本村にも横穴が群在している。写真はその一つである。

4、円墳内の石室入口　福島市大字岡山宮田かぶと塚

円墳の封土を除くと横穴式の石室があり、羨門という入口があつて、そこにふた石がある。加工した切石で作つた石柱、台石がある。それに方形の切石のふたがあり、これを除くと長径四メートル、最大巾一・八メートルの玄室があつた。写真は側壁の積石と、羨道の石積がよくみられる。後期の円墳内部である。

第十図版　古墳内部

1、礫　か　く　相馬郡真野村大字寺内字八幡林

真野古墳群四九号墳（円墳）で長さ三米五〇、巾四〇センチ、手頃の礫をもつてつくり、東にやや傾向し、古墳文化前期に属する舟形棺の形式をもつている。内部から一八図版（1）の石製模造品が発見された。

2、木　炭　か　く　田村郡守山町正直

郡山市の東、旧阿武隈川の河成段丘の末端に大古墳群がある。その中の円墳第一〇三号には、木炭をしきつめた屍床があつた。長さ五・四メートル、巾一・二メートル、周囲に木炭を高く盛り、低部の層はうすい舟形である。石製模造品と鉄製刀子、オパールの丸玉が発見された。

3、たて穴式石室（円墳）　同町大善寺

正直古墳群の更に北東の丘陵にあり、かつて封土（円墳）があつたが何時の頃か除去されて、畑の地表下に、若干加工した石を組合せた石室があり、板状のふた石四枚がある。内部に人骨の外に直刀、鉄鏃、骨鏃が出土した。長さ二米一五、最大巾六二センチ。丸印は骨鏃を示す。

4、横穴古墳（入口の構造）　西白河郡吉子川村大字二子塚西内

阿武隈川上流に臨む丘陵南面に横穴数箇が開口している。図は入口の構造を示し、土砂を除くと高さ約九〇センチ、巾五〇センチの入口に五箇の自然石をもつて穴をふさぎ、その奥に一枚石のふた石があり、内部に短形の玄室があつて、人骨八体の合葬体があつた。他に副葬品なし。隣の横穴よりは直刀、鉄釧が発見されている。

第一一図版　石　室・棺

1、陶　棺　石城郡植田町大字後田字源道平

鮫川に臨む丘陵上に前方後円墳、円墳群があり、そのうち円墳の横穴式石室内から、大正三年地主赤津氏により発見された。長さ約二メートル、巾約四四センチ、高さ約五〇センチ、二十一脚があり、中から直刀玉類が発見され、国立博物館及び赤津家に保管されている。

棺は今破損し、公民館に保管している。写真は発見当時の撮影である東北地方唯一にして、陶棺出土の北限として注目すべきものである。

2、石　棺　石城郡高久村神谷作字腰巻　〃

天冠埴輪土偶を出土した砂丘上の古墳群の南端にあり、墳形は明でない。大正十五年発掘し、人体及び直刀、鉄鏃等の副葬品があつたという昭和二十三年十二月再発掘を行つた時の撮影である。凝灰岩をくり抜いたもので、長さ約三メートル巾（内法）一・二メートル、高さ〇・八メ

ートル、二枚の大きな板石のふた石がある。内部に朱色をぬつた痕跡がみとめられる。東北地方としては特異な存在である。

3、横穴式石室　相馬郡真野村大字寺内字大谷地

真野古墳第二四号の前方後円の鞍部にあり、数枚の自然石のふた石があり、内部は奥行約一メートル、間口二・二五メートル、高さ約八五センチ、玉石をもつて構成している。普通の横穴式石室は奥行が長く、その延長した前方に羨道、羨門があるが、この石室は間口が広く羨道のとり附方は異例である。内部より直刀、鹿角装刀子、鉄鏃及び人骨が検出された。

4、組合せ石室（竪穴式）　石川郡浅川町字背戸谷地古墳

ようやく墳丘を認める程度の小円墳の地下式の竪穴式石室で、長さ一・九メートル、最大巾六〇センチの板石をもつて構成した組合せ式の小石室である。頭部のふた石が既に除去されており、内部にガラス製小玉三粒のみ発見された。盗掘されたものと思われる。

第一二図版　古墳の壁画

指定史跡　泉崎横穴

東北本線泉崎駅の東方約二キロ、県道に沿う丘陵の傾斜面にあり、凝灰岩をほつた横穴である。昭和八年十二月道路工事中偶然に数個の横穴群とともに発見された。羨門は巾六五センチ、高さ七六センチのアーチ型で、その奥に間口約一・九五メートル、奥行約二・一メートル、高さ（中央）一・一二メートルの宝形造の玄室である。奥壁に近く屍床を一段高く設け、底部に水抜の溝がある。

壁画は奥壁即ち正面には、この古墳の被葬者の或る日のスケッチであろうか、主人の騎馬人物が、弓に矢をつがいて、耳（角）の長い獣を追い、その後方に勢子らしい男子四人と、裳裾をつけ高杯様のものを捧持している三人の女の絵がある。向つて右壁には、馬と飼料桶とみられる臼様のもの、左壁には鞍をおいた馬を人がひいている様が二頭、他に一二頭の馬がみられる。この外に、爬虫類のようなもの、左巻又は右巻の渦巻、直線、珠文や円、三角形を交叉したものが数多く朱で彩色してある。

この古墳群から直刀、刀子、鉄製環の副葬品や、須恵器の高杯、土師式土器が発見されている。

顔料（朱）を用いて装飾した横穴古墳は、わが国横穴中、類例のない貴重な存在で古墳末期になつたものである。昭和九年五月指定。

（西白河郡川崎村大字泉崎）

第一三図版　埴　輪

1、円筒埴輪、形象埴輪の埋没状況　石城郡高久村神谷作字腰巻

海岸に程近い砂丘の古墳で、形式は明でないが、埴輪の並列状態から前方後円墳と思われる。円筒埴輪、人物、動物（馬、鳥）が約一メートルの間隔で並んでおり他に家型埴輪があつた。

2、天冠を有する男子埴輪像　同　所

(1)図の12と印した脚部の上に坐る人物埴輪で、朱彩をほどこし、三角形の先端に鈴をつけ、放射状に出た飾りのある天冠を有し、肩まで長い美豆良（みつら）耳飾があり、両手は手甲をつけて器物を抱く形状をなし玉まきの太刀をはき、安坐している。三角形の彩色をほどこした短甲

を着ている。武装した貴人の姿で、全国的に優れた人物埴輪で、当時の東北地方―石城国の古墳文化のすぐれていたことを実証する稀有の佳作である。人物の高さ約七七センチ、台部を合せて一メートル余の堂々たるものである。昭和二十三年十二月発見。（磐城高等学校史学研究部復原並に保管）

3、女性埴輪頭部　相馬郡八幡村坪田高松山古墳

中村町南二キロの丘陵にある古墳群中より明治三十四年発見された。鉢巻状の被物を額につけ、首に丸玉をかざつている。頬から眼にかけて朱彩がある。大き約二十一センチ。（所有者佐藤金重）

4、き像埴輪　石城郡高久村神谷作古墳

頭部の大さ一四センチ、胸部以下を失う。みつらを欠き首に玉飾がある。ひざまづいている男子埴輪で、唯一の跪像といわれる茨城県行方郡青柳出土に比して優るとも劣らぬ貴重な文化財である。

第一四図版　装身具　その㈠

1、2、金銅製双魚佩　相馬郡真野村大字寺内字大谷地

真野古墳第二〇号前方後円墳の鞍部（くびれ部）に三メートル×三・五メートル、深さ一・三メートルの礫を積み重ねて構成した一種の横穴式石室を模したかくがあり、内部より、土師器、直刀、鉄ほこ、鉄鏃、馬具等と共に発見された。二品大さが異り、1はやや小さく復原の大さ約一九センチ。2は約二〇センチとみられる。絹織物と推定されるものと、不明の繊維が残つているが、腰飾りとして懸垂する布地であろう。

魚佩として知られる千葉県木更津（大場磐雄博士検出）出土よりも完全であり、工芸技術としても優れ、朝鮮系の文化が東北地方に入つているよい証左である。本県の古墳文化の優秀さを語る稀有の文化財である。（県教育委員会保管）

3、金銅製天冠立飾　石城郡錦町中田字五十石山ノ上古墳

常磐線に近い興羽化学工場に隣して円墳群がある。現在完全なものは一基であるが、昭和二年頃発掘し、更に二十五年十一月再調査を試みた際、人骨約八体分、須恵器、刀剣、鉄、骨鏃、耳飾、玉類を伴つて天冠金具が発掘された。丸形の同形のもの二箇と、一部欠失している角形一箇計三箇で、各々三角形の透彫と唐草文が毛彫されている。丸形は長さ一二センチ、最大巾一〇センチ。角形は長さ一〇センチ。共に厚さは六ミリの金銅製である。出土状況は攪乱されていたが、金糸と金銅の小さな管玉様のもの、ガラス玉があつたのは、頂上の小穴に下げてあつた纓絡と思われる。（文化財保護委員会所有）

第一五図版　装身具　その㈡

1、漢式鏡　伊達郡桂沢村所沢

小さな円墳より出土。鋸歯文、連点文あり、素紐の仿製鏡である。径七・三センチ。（同所石田虎治保管）

2、玉類

左上より

棗	玉	石川郡浅川町古語宮古墳。長四・一センチ
切子	玉	福島市岡山。長さ二・七センチ
勾	玉	福島市鳥谷野
小	玉	ガラス製。相馬郡真野古墳

下左より

管	玉	安積郡大槻町
銀製平	玉	銀杏の実に似て中空。石川郡浅川町古語宮
金	環	耳飾、径二・八センチ。伊達郡桂沢村

3、鈴　釧　安積郡大槻町　径一〇センチ（松井元所蔵）

釧　石川郡浅川町　径七・二（浅川町公民館）

共に青銅製の腕輪である。

4、金銅製鍔

左より

六窓透彫鍔　長径八・五センチ。安積郡大槻町（同町松井元所蔵）

宝珠型鍔並鞘金具　福島市岡山源氏山古墳。（鹿島神社所蔵）

第一六図版　武具類

1、直刀　相馬郡真野古墳

下のもの円頭柄頭太刀。

2、環頭太刀（部分）　石川郡泉村中古墳。昭和二十五年二月、大場磐雄博士発掘。阿武隈考古館蔵

3、わらび手刀　長さ四〇・五センチ。信夫郡平田村大字平石アカシバ。古墳の形式は不明人骨の入つた須恵器を伴つて発見されているので、恐らく火葬墳であろう。福島附近のわらび手刀は、墳丘の小さい簡素なもので、古墳最末期であろう。（同村第二小学校保管）

4、金銅製環頭式柄頭　田村郡守山町大字山中字枇杷沢

正直古墳群の最東端にある円墳で、竪穴式石室の内部から須恵器、勾玉、紡錘車と共に発見された。五・八センチ×四・五センチの小さな三葉文で刀身は約二尺。（所有者香西岩一）

5、円頭式柄頭と鹿角柄鐵刀子　相馬郡真野古墳

双魚佩と共に出土した鉄製の柄頭である。小さい方は刀子の鹿角製柄である。

第一七図版　武具・馬具

1、鐵ぞく　左より

片刃型	相馬郡真野古墳。長さ一・七五センチ	
尖根型	田村郡守山町大善寺	
同型	伊達郡森江野村塚ノ目	
銅鏃型	相馬郡真野古墳。長さ八センチ	

2、銅ぞく　安積郡大槻町。長さ六・七センチ。松井元所蔵

3、骨ぞく　石城郡錦町山ノ上古墳

左八点共に骨製鏃で、最大のもの長さ一五、四センチ、巾一・一センチ、厚さ〇・五センチ。右端の尺度形骨製品は、用途不明である。長さ一四・三センチ。巾二センチ。厚さ〇・五センチ。上端に「十一」の文字様の陰刻がある。天冠金具と共に発見。（文化財保護委員会所有）

4、鐵斧・桂甲小札

鉄斧は、伊達郡大田村金原田字高野の石室のない墳丘より直刀、土師器と共に出土。県教委蔵大さ一〇・二センチ。

桂甲小札、双葉郡標葉町清戸迫横穴出土。七センチ×二・九センチ。鉄製よろいの断片である。鉄製椎頭太刀を伴う

5、馬　鐸　相馬郡上真野村小池

6、雲　珠　同

7、くつわ・鏡・板　同

真野古墳の一部をなす小池原開墾地にある第八号円墳出土品である。馬鐸は三箇あり。同型で大さ一二センチ。（一箇は福浦村渡部晴雄保管他は慶応義塾大学史学研究室。轡、雲珠は渡部氏保管）

第一八図版　祭祀用模造品

1、石製模造品　相馬郡真野古墳

左より槽、鏡、小玉、斧頭、刀子、鎌、第一〇図版(1)の礫かく内より発見。槽の大さ約一六センチ。

2、車　輪　石　郡山市附近出土

八・五×六・三センチ。（円寿寺新国西新所蔵）上二箇は石製模造品の鏡と剣である。（伊達郡森江野村塚ノ目出土）

3、子　持　勾　玉　西白河郡小野田村大字下野田島横山

耕地内の小盛土より発見。附近に弥生式土師器破片出土している。（同村大津正栄保管）

4、土製模造品　伊達郡上保原村高子

奇岩壓石乱立した墳丘様の小山の麓から出土する。ほこ、鏡、玉、勾玉を模したものの外、粗製の土師器を伴う。ほこの長さ八センチ。祭祀用として特に作つた模造品である。（県教育委員会保管）

第一九図版　須　恵　器

1、長　く　び　壺　西白河郡金山村高木古墳

直刀、土師器を伴出。（同村郵便局長藤田氏蔵、岩越二郎撮影）

2、壺　福島市鎌田天神平

高さ一九・二センチ。（同所佐藤正旧蔵、月輪小学校保管）

3、長　く　び　壺　石城郡錦町土ノ山古墳

天冠を出土した円墳より二箇出土。高さ約二七センチ。へら書の波状文がある。

4、平　瓶　（伝）福島市鳥谷野古墳

高さ一〇センチ。口縁部が欠失している。（県教委蔵）

5、高　杯　双葉郡標葉町郡山

横穴式石室より直刀、耳環、釧等と共に出土した。高さ一三センチ、タカツキというよりは「台付マリ」といつた方がよい。（福島学生考古学会保管）

6、さ　ら　石城郡内郷町高坂字三本杉

住居跡から発見。一部かけている。（内郷郷土研究会菊池康雄蔵）

第二〇図版　土師器と米

1、粍付土器　伊達郡伊達崎村上郡舟場

口縁部が一部かけている土師器。高さ一四センチ。粍の圧痕一箇が上方に附着している。現在阿武隈川となつた住居跡より発見。（県教委蔵）

2、坩　と　まり　相馬郡真野古墳

右のつぼはくびれ部に二箇の穴があり、懸垂にしたもので高さ一三センチ、魚佩を出した礫かくの上層より発見。

左のまりは、朱彩で馬具を出した上真野村小池古墳より発見。（共に県教委保管）

3、こ　し　き　と　米　石川郡泉村小高字北ノ内

鉢型の土師器底部に十箇の小穴かある。内部に炭化した米が多数入つていた。こしきとは米飯をかしぐ器のことである。大さ一二センチ。（阿武隈考古館所蔵）

4、木製鍬、土師器、くるみ、とじ　安積郡福良村字五斗蒔田

猪苗代湖南岸管川の改修工事中、水田下二メートル余の底から発見された。ならの巨木の幹を鍬先とし、幹から斜に出た小枝をそのまま柄とした最も原始型な農耕具である。鍬の長さ四五・五センチ、最大巾一八センチ。最大厚七センチ柄の長さ六五センチ。これに伴つて内黒の土師器皿と、くるみ、とじの実等の植物性遺物が発見された。（同村宗像彦寿保管）

あとがき

一、この報告書は、主として終戦後県下において発見された優れた埋蔵文化財の写真を集録したものである。

一、これらの調査については、県文化財調査委員岩越二郎氏、渡部晴雄氏並びに県下の考古学研究団体、研究家の手になつたものが多い。

一、中央では文化財保護委員会の斎藤忠氏、国立博物館考古課長八幡一郎氏、東京大学山内清男氏、鈴木尚氏、慶応大学の清水潤三氏、江坂輝弥氏、明治大学の後藤守一氏、杉原荘介氏、国学院大学大場磐雄氏東北大学伊東信雄氏並びに各大学、研究所の先生方の御指導を得ている。

一、写真は主として編者の撮影になるが、前記の先生方、植田町の長谷川辰雄氏並びに福島市川口写真館本田一氏の犠牲的援助によつた。

一、以上協力下さつた各位に深甚の敬意を表する。

一、本書を第一集として、逐次続刊する予定である。研究資料とし、教材用として稗益することがあれば望外の幸である。

昭和二十七年三月十日

福島県教育委員会社会教育課

社会教育主事　梅　宮　　茂

昭和二十七年三月二十日　印刷
昭和二十七年三月三十日　発行

非賣品

編集兼発行人　福島県教育委員会社会教育課

福島市陣場町六二

印刷人　小浜印刷株式会社
小浜寅松

転載したい時は発行人に御連絡下さい